

平成 21 年度 宮前区区民会議企画部会（第 1 回）摘録

- 日 時 平成 21 年 5 月 12 日（火）午後 6 時 00 分から 7 時 50 分
- 会 場 宮前区保健所会議室
- 参加者 永野部員長、宇賀神委員、佐藤委員、高木委員、田邊委員、前田委員
（以上、部会委員・欠席 川西委員、松井委員）
門ノ沢副区長、岩佐企画課長、成沢主査、鈴木職員（以上、事務局）
岩下研究員（コンサルタント）

1 開会

- ・新任の門ノ沢副区長が開会のあいさつをしました。
- ・会議の公開について、事務局が説明し、委員の了承を得ました。
- ・欠席委員の連絡がありました。（松井委員・川西委員）
- ・部会長（委員長）が開会のあいさつをしました。

2 議事

（1）第 1 回宮前区区民会議からの提案に対する取組状況について

※事務局から資料 1 に沿って説明があり、質疑応答、及び追加すべき報告事項等について討議を行った。

※区民会議当日は、更にチラシ類等の資料を添えて説明をすることが確認された。

●新型インフルエンザへの対応について

宇賀神委員 防災の出前講座ですが、先日申し込んだところ、新型インフルエンザの対応で、現在危機管理室が職員を派遣できるような状況にないということで、断られてしまいました。この状況はしばらく続くと思われますので、一言添える必要があります。

前田委員 今後様々な状況が考えられます。秋～冬頃に流行する可能性もあると聞きました。その場合の対応などは区役所としてはどうなっているのでしょうか？

事務局 現在、首都圏の 8 都県市で対応を検討中です。川崎市内や、横浜市や東京都の大田区、世田谷区などの隣接自治体で、感染が広がる等の状況が出てきた場合、行政が主催するイベントや会合は全て中止になることがあります。また、職員に感染者が出た場合、区役所機能がストップしてしまう可能性なども想定されます。

前田委員 地域の活動団体もどのような対応をしたらいいのか、迷われると思います。明確なルールが行政側から示されると団体も動きやすく、決断しやすくなると思います。

事務局 まだしっかりとした対応マニュアルができていない状況です。二次流行でウィルスの性質の変化も考えられます。今後近隣で起きた場合も想定し、危機管理について、近隣自治体と協力して対応策の決定を急いでいるところです。

※区民会議当日は、現在の対応策の検討状況などを簡単に説明することとした。

●蔵敷商店街での「オオカミの護符」上映会について

高木委員 どのような発案経緯だったのでしょうか。地域からの声や応募などがあったのでしょうか？

事務局 行政からの発案です。参加者については、告知に応じてきて下さった一般の方々です。

●こども文化センターについて

前田委員 宮崎こども文化センター内に地域子育て支援センターを開所予定ということですが、建物は改修されるのでしょうか。鉄筋は大丈夫ですが、建物の内装や外装はこどもたちの手垢による汚れなども目立ち、かなりボロボロです。

宇賀神委員 どこのこども文化センターもそうです。

事務局 今年度の予算では菅生こども文化センターの改修が予定されています。ただし、建て替えというわけにはなかなかいかず、内装などの改修になります。

永野委員長 有馬こども文化センターでは、お祭りなどのイベントの収益金の一部をカーテンを買うなどの費用に回しています。

佐藤委員 蔵敷こども文化センターも同様です。年に3~4回お祭りを開いて、その収益を備品や改修にまわしています。

前田委員 こども文化センターはけっこういろいろな世代の居場所になっています。

事務局 市の施策としても、児童館という本来の使命はありますが、その他の時間帯などは地域の方々に広く使ってもらえるコミュニティ施設を目指しています。障害児のための事業なども展開しています。

佐藤委員 蔵敷では、カラオケに地域の高齢者が来たりしたり、ヨガ教室など、午前の開いている時間帯や、夜間などに利用しています。

永野委員長 こども文化センターは、老人いこいの家と合わせて整備されている例が多いですが、互いの交流がもう少しうまく進めば良いと思います。市民こども局と健康福祉局ということで、担当が違いますが、本来は世代間交流も狙っており、地域からしかけても良いと思います。有馬野川の生涯学習支援施設が10年かかってできましたが、途中計画が凍結した際の理由は、学校やこども文化センターの施設をそういう機能にも開放していくという市長の考えがありました。それなら施設の改修などをそのためにしてくれとお願いしたのですが、当時は予算がないという回答でした。

事務局 こども文化センターは本来児童館なので、トイレをはじめ、各施設がこども仕様でつくられています。そのまま一般の人が使うようになっていかなかったり、バリアフリーの面などで、課題などもあることもあります。

永野委員長 南野川小幼稚園跡地が、今度5月25日に「こどもサポート南野川」としてオープンするのですが、この施設もトイレが幼稚園向けで男女一緒に使えなくなっています。

事務局 トイレは改修予定と聞いております。

永野委員長 施設が古くなっているものについて、改修に向けて、利用している区民が声をあげていく必要はあると思います。

(2) 各部会の審議状況について

ア 公園・地域づくり部会

※佐藤部会長から資料2に沿って説明があり、質疑応答、討議内容についての意見交換などを行った。

佐藤委員 公園の日は統一美化の日と併せて、公園に目を向けてもらう日としてはどうかという案があります。また、フォトコンテストにこども部門などをもうけ、みやまえぼーたろうとの連携による公園のフォトコンテストの開催と定着化などのアイデアも出ています。アンケートでは、公園で火を使いたいという要望が出ており、横浜市のプレーパーク要綱などについて、より深く研究する場があってもよいのではないかと個人的に感じています。

高木委員 横浜のプレーパークの要綱は入手されたのでしょうか。プレーパークはどのくらい川崎市でできるかわかりませんが、かなりおもしろい取組になると思います。

佐藤委員 事務局の方で資料を入手して下さっています。次回の部会会合までにより詳しく調査を進めたいと思います。

前田委員 横浜市ホームページにも掲載されています。横浜市／こども青少年局／こどもの居場所／プレーパークでページを開くことができ、開催日程なども全て出ています。公園ごとに取組状況も違います。各区1箇所以上の整備を目指していますが、まだそろっていないようです。

永野委員 プレイリーダーの養成などはやっているのでしょうか。

前田委員 市が「プレーパークをつくろうネットワーク」というのをNPOにつくってもらい、そこに補助金を出して、訓練なども行っています。プレイリーダーには少額ですが、嘱託としての給与も数名分出ています。ただそのプレイリーダーだけで運営することは無理なので、かならず地域のボランティアも携わっています。プレイリーダーになりたい人は結構いまして、人気が高いと聞いています。

事務局 横浜市は公園を整備し、維持管理するだけでなく、コミュニティなどのソフト面にも組織として関わっているように感じるのですが、実態はどうなのでしょうか？

前田委員 横浜市では土木事務所が各区に入っていますが、担当者によって、プレイパークへの対応や温度差も様々というのが実態です。土木事務所や区の担当、やる気のある地域ボランティアやNPO、そして受け入れ側としての周辺地域、幸せな出会いがないと、なかなかないとプレーパークがうまく運営できません。神経質な母親だと「プレイパークをやっている日には公園に行かせない」という人もいます。

高木委員 やはり温度差は絶対出てきますし、実現には人間関係が重要ですね。先ほどの掲示板の提案も始めてみると、使い方でも差がでてくると思います。でもそれはそれで

進めていかないとはいけません。

佐藤委員 全ての公園で一律に進めていくのではなく、募集をして、やりたいという公園、条件が合った公園からやっていこうと考えています。きちんと利用方法やねらいができているところから設置し、モデルケースをつくっていきたいと考えています。

永野委員 地域で受け皿や運営を支える人がいる地域からということですね。話は少しそれてしまいましたが、5月16日にオープンする有馬・野川の障害学習支援施設では、オープニングイベントの生涯学習地域づくりの夢を語るパネルディスカッションでえあ、宮前区子どもの遊び場を考える会「ぼれぼれ」の山岡洋子さんにもパネラーとしてご出演いただきます。こどもの遊び場やプレーパークの話題も出ると思います。

前田委員 プレーパークでは、やっぱりこどもが怪我をします。木登りで落ちて、骨折した子もいます。ただ、それも自己責任ということ、利用者によく説明し、理解を得ていく必要があります。

高木委員 プレーパークの憲章では、「怪我は自分責任」ということがまずあります。世田谷のプレーパークでもそうです。飛森でも「遊ぶのは自由だけど、怪我は自分責任」となっています。

佐藤委員 (世田谷区の)羽根木のプレーパークにも、まず入口の所に大きくペンキで「家

がは自分の責任ですよ。それを理解した上で」と木の板に手書きで書いてありました。

永野委員 細かい怪我の体験によって、「こういう状態は危険だ」と体験的に学ぶことも必要です。そうでないといきなり大怪我をしてしまう恐れがあります。

前田委員 その辺りがうまく合意形成できると良いのですが。クレームはまず行政にいきます。うまく対応、合意形成していかないと訴訟沙汰になってしまうこともあります。小さな怪我によって、大きな怪我を防ぐ。病気の免疫と同じなんだ。その理解を広げないといけません。

高木委員 行政が入ってくるのではなく、市民の間で進めなければならないことかもしれません。

前田委員 プレイリーダーが道具の使い方や遊びのルールなど指導しています。木登りなどしている場合でも本当に危なそうな場合には、指導します。今の子どもたちは、刃物を使った経験に乏しく、そのまますぐ使わせると非常に危ないことがあります。教えながら学んでいます。

高木委員 リーダー研修など、何でもかんでも資格制度を導入するが良いのかどうかというと、ちょっと疑問もあります。飛森のスタッフは子どもたちの遊びの指導もしていますが、特に資格をもっている人はいません。資格制度にして、資格をもっていないとできないようにするなど、制度で縛りすぎても、逆にやりにくくなってしまうことがあります。ナイフの使い方なども教える時もあります。大体説明の時に聞いていない子が怪我をします。「ナイフは自分の親指よりも先で使うんだよ」などの説明をしますが、説明している段階から、聞いていない子、危なそうな子を探しておきます。大体わかるもの

です。

前田委員 昔は地域の大人やお兄さんなどが自然に教えていたんですよ。

佐藤委員 自分の子育てが終わって、気持ちはあっても、一人では公園やプレーパークに行きづらい大人は結構いるのではないか。子どもが好きな人、子どもに教えたいシニアがプレーパークに行くと、指導できるようにしていけると良いと思います。

高木委員 世田谷や横浜の良い事例を参考にしながら、宮前区に合った新しい制度ができると良いと思います。その上では、「プレーパーク」とあえて名乗らずに新しい名称を考えても良いかもしれません。「プレーパーク」は制度としてあまりに固定化されてきている面もあり、「冒険遊び場」などと名づけている例もあります。

前田委員 世田谷区の羽根木プレーパークはスタッフは公務員とほぼ同じ給料をもらい、社協職員がプロとしてやっています。別格の取組ですが、反面地域社会とは全く関係なく運営されています。横浜市では、地域の町内会との関係をうまくつくっている事例もあります。

イ 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会

※高木部会長から資料3に沿って説明があり、質疑応答、討議内容についての意見交換などを行った。

佐藤委員 地域毎に様々なマップが一冊になっていると良いと思います。親子で違うページを見ていると良いと思います。例えばお父さんはメタボ対策マップ、子どもは昆虫マップを見ていると、場所が合えば一緒に行ってみようとなればおもしろいと思います。

宇賀神委員 1枚のマップに情報を載せすぎても、かえって見にくくなってしまいます。

永野委員 あまり立派な地図である必要はなく、簡単に手に入る、安価で製作できるマップが必要ではないかという意見も出ていました。

高木委員 最初はペラ1枚のチラシ的なマップでも良いかなと思っています。あまりしつかりしたものや、冊子の様なマップは今のところ想定していません。

佐藤委員 地域でいろいろなマップを作っていけるとすごくよいなと思います。宮前ぼーたろうで地域の宝物を投稿するコーナーができていますが、区民会議と関係があるのでしょうか。

高木委員 関係しています。部会の討議を受けて、千葉委員にご尽力いただいています。

※部会長の報告の後に、千葉委員から補足として、簡単に説明してもらったこととした。

(4) 第1回宮前区区民会議の議事について

※事務局から資料4に沿って説明があった。資料内容に加えて、主に確認した事項は以下のとおり。

- ・ 参考資料の事業概要は冊子は当日に間に合わないのので、原稿ベースで提示する。

- ・ 公園事務所は現在、高津区子母口にあるが、各区に整備される。宮前区には平成 22 年度から現在の有馬の建設センター内に設置される。

(5) 今後のスケジュールについて

※事務局から資料 5 に沿って説明があった。各部会で既に確認されたものであり、特に追加事項、意見等は出なかった。

3 その他

○副委員長選出について

- ・ 川西副委員長の退任に伴い、平成 21 年度第 1 回の区民会議で議題となる、副委員長の選出について、企画部会案の討議を行った。
- ・ 川西委員は地域教育会議から選出されているが、地域協議会議の委員から 6 月に退任予定であり、先立って今回委員を交代されることとなった。後任は現在の地域教育会議議長の持田正美氏（有馬の子ども会会長、宮崎中学校区教育会議議長などの経験がある）が決まっている。
- ・ 第 3 期への継続性も考えて、第 2 期からの委員が良いのではないかなどの意見も出たが、第 3 期の状況は現時点でわかるものではなく、今期のみの中で考えることとした。
- ・ 永野委員長を始め、複数の委員から宇賀神委員を推薦する声があがり、本人も了承。企画部会案として投げかけることとした。

○その他区民会議の議題や運営に関連する話題

- ・ 川西委員の公認となる持田委員の所属部会については、本人の意向に沿って決定することとした。
- ・ 3 月に開催された参与との懇親会・意見交換会について、内容の報告を会の終わりに簡単に行うこととした。有意義であったことを強調することとした。
- ・ 5 月 20 日に計画されていた区民会議の七区交流会は中止になった。現在日程を再検討中である。

○有馬・野川生涯学習施設の開設について

永野委員長 愛称が未だに決まっておらず、本棚も当初の設計と違うなど、教育委員会の対応が遅い面があります。またオープニング記念イベントについても未だにホームページで掲載されていません。区役所で掲載できないのでしょうか？

事務局 縦割り行政と批判されてしまうかもしれませんが、教育委員会の管轄ということで、区役所としては非常に動きにくい面があります。川崎市ではまだ公の施設を区で持っている例がないというのが現状です。

前田委員 教育委員会としても、ひとつひとつの施設まで丁寧には、なかなか手がまわっていない実態があります。施設を地域に開くためには、私はこれからの時代は施設もどんどん区に持たせるべきだと思っています。

高木委員 指定管理者制度も、民間の参入がまだ少ないなど問題が指摘されています。人口規模的には、区にそうした機能があってしかるべきだと思います。

事務局 公的な施設は議会との関係が出てきます。そのあたりの仕組みから変えていかなければなりません。

佐藤委員 先ほどでしたが、こども文化センターは地域みんなでお祭りをして、頑張っている地域もあり、予算がないことが、地域で支えあっていることもあります。

前田委員 資源が無いほうが、みんなで協力することもあり、予算がつきすぎると、「それは行政の仕事」となってしまう面もあります。

※取組状況の報告の中で、こども文化センターの運営協議会による活発な活動例について、補足的に佐藤委員から少し触れることとした。

○「歳時記宮前」について

※第 1 号の原稿について紹介があった。企画課が担当し、今後徐々に内容の充実・定着を図ること、区民から寄せられた情報掲載などの仕組みの確立を図っていくことが確認された。

○今後の日程について

- ・ 次回区民会議は 8 月 4 日、有馬・野川生涯学習支援施設を会場に行う計画を進めている。
- ・ 次回企画部会日程は 8 月 21 日（火）18:00～開催することとした。

（以上）